2021 年度 JICA 地球ひろば　国際理解教育/開発教育指導者研修

国際理解教育/開発教育　学習指導（活動）案

【実践者】

授業者氏名	齋藤和輝	学校名	私立　立命館守山高等学校
教科（科目）・領域	世界史 B	対象学年（人数）	2 年　1・2 組（　16 名）
実践年月日もしくは期間（時数）		2021 年　10 月　～　11 月（　12 時間）	

【実施概要】

1. 単元名(活動名)：海洋による世界の一体化

2. 実践する教科・領域：
世界史B
2部「海洋による世界の一体化」

3. 学習領域

	1	2	3	4
A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
B グローバル社会	相互依存	情報化		
C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	

4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）：

・18～19世紀の西ヨーロッパにおける「世界の一体化」によって、変化した「人間の暮らし」「国家・社会の構造」を説明できる。

・18～19世紀にできあがった現代世界の様々な仕組が生み出した現代社会の抱える課題について、現代社会と結びつけて、考察する。

5. 単元の評価規準	①知識及び技能	18～19 世紀に変化した「人間の暮らし」「国家・社会のありかた」の変化を理解する。
	②思考力、判断力、表現力等	18～19 世紀の変化を整理し、世界の構造を自分の言葉でまとめることができる。
	③学びに向かう力	18～19 世紀に生じた現代課題について、獲得した知識を活用しながら、考察している。

6. 単元設定の理由・単元の意義 （児童／生徒観、教材観、指導観）	【単元設定の理由あるいは単元の意義】 ・現代社会が抱えている課題は、特定の国家が抱えているものではなく、あらゆる地域・社会が結びついて生じているものである。生徒がこの先、現代課題にアクションを起こしていく中で、全体像を俯瞰してみることができる。 ・18～19世紀に加速する「世界の一体化」によって、自分の生活が、「世界」とつながっていることを認識できる。 【児童／生徒観】 ・生徒は活動に積極的であり、授業内課題に真摯に取り組んでいる。世界史の中で起こっている事象の考察を通して、歴史を学ぶことが現代社会における課題に結びついているという認識が育ちつつある。 ・SDGsについて理解している生徒は多いが、歴史的要因と結びつけられる生徒は少なく、自分たちにとって重要な問題であると考えておらず、身近にもその存在を感じているとは言い難い。 ・「社会構造」などの抽象的概念の獲得を苦手とする生徒もいるため、資料の読み取りや授業内課題の返却によって、教員による丁寧な解説と支援を行っていきたい。 【教材観】 ・18～19世紀は、「世界史」の舞台が全世界に広がり、地域の結びつきが深まったことを意味する。結びつきが広まることによって、経済的な分業関係が成立していく。成立した分業関係によって、拡大した格差は現代社会においても、様々な課題として残っている。例えば、「先進国による途上国のモノカルチャー経済」などの国際貿易問題に始まり、「国民」という枠組みによる排斥などの問題が挙げられる。 ・本単元においては、18～19世紀の問題を「グローバル化」と「格差」の観点から取り扱う。日本においても、様々な「格差」が議論されている。この問題を考えることで、日本の問題を世界の視座をもって概観し、そして自己の生活においても考えることができる。 【指導観】 本単元では、前項における目的を達成するために、「世界の一体化」と「格差」の観点から指導を行っていく。 1時～3時では、イギリスがその植民地を拡大していく過程を「財政革命」「三角貿易」「産業革命」の観点から説明し、経済発展する国とそうではない国の差について考察する態度を養う。 4時～7時では、「遅刻」「国民」「人間」という身近な事象から関心を誘うとともに、国内においても生じる格差についての知識の習得を図るとともに、どのような常識も歴史的に醸成されてきたことに気づかせる。 8時～10時では、ナポレオンが拡げた「国民国家」「自由貿易」などの現代社会でも通用する概念の拡大についての知識の習得を図る。 11時では、「コーヒー」などの身近な飲食物をめぐる歴史について考察することで、グローバル化と拡がる格差について、「自分ごと」として考察する力を養う。 12時では、本単元で学習したことを振り返り、現代社会の課題の遠因を考察させる。その際、SDGsとの関連性を意識させたい。

7. 単元計画（全１２時間）

※全体の総時間数や「本時」の記入場所は適宜変更してください。

時	ねらい	学習活動	資料など ※：JICA リソース活用はここに記載
1	単元の問を考える。 **「グローバル化によって人々の生活や社会はどのように変化したのか？」**	・単元の問を考える。 生徒同士で話し合ったり、個人で思考したりして、既存の知識を用いて単元の問を考える。	

2	主発問 **「なぜイギリスは植民地競争でフランスに勝てたのか？」** ・議会が保証する国債によって、戦費を獲得できたことを理解する。 ・うまく財政をまわすには「信用」が必要であるということを理解する。	・講義を聞き、適宜発問に答えていく。 ・他の人と共有する。	教科書・資料集 『金融の世界史』 『mundi』「みんなのお金 ―回す仕組みを作る― 」
3	主発問 **「なぜ茶が育たないイギリスで、紅茶文化が生まれたのか？」** ・大西洋三角貿易を理解する。 ・砂糖、奴隷、武器、茶の貿易構造によって、今日の社会に与えている影響を理解する。	ジグソー活動 A：イギリス国内の資料 B：茶の生産（清）の資料 C：砂糖の生産（アメリカ大陸）の資料 を、個人がそれぞれ学習し、最後にグループワークでつなぎ合わせる。	教科書・資料集 『砂糖の世界史』 『茶の世界史』
4	主発問 **「産業革命に必要なものは？」** ・「原料」「資本（金）」「労働力」「市場（売る場所）」という用件が必要であることを理解する。 ・経済発展に必要なものを理解する。	・講義を聞き、適宜問題を解いていく。 ・資料から、個人で知識を獲得する。 ・他の人と共有する。	教科書・資料集
5	主発問 **「なぜ遅刻をすると怒られるのか」** ・工場で共同で働くために時間をそろえる必要があったことを理解する。 ・産業資本家と労働者階級に分化したことを理解する。 ・普段「常識」だとされてるものも、一つの慣習であるということを理解し、多文化への視座を拡げる。	・講義を聞き、適宜問題を解いていく。 ・資料から、個人で知識を獲得する。 ・他の人と共有する。	教科書・資料集 『遅刻の誕生』
6	主発問 **「アメリカ独立革命で誰が独立したのか？」** ・黒人、奴隷に関しては独立宣言の「われわれ」に入っていなかったことを理解する。	・講義を聞き、適宜問題を解いていく。 ・他の人と共有する。	教科書・資料集
7	主発問 **「国民とは何か？」** ・フランス革命によって、新たな枠組みである「国民」が生まれたことを理解する。 ・「国民」という集合が当たり前ではなく、作られたものであることに気づく。	・講義を聞き、適宜問題を解いていく。 ・他の人と共有する。	教科書・資料集 『フランス革命』
8	主発問 **「フランス人権宣言における「人」とは誰のことか？」** ・フランス人権宣言において、無産男性のみ、権利が認められたことを理解する。 ・「人」という言葉の曖昧さに気づく。	・史資料から、個人で知識を獲得する。 ・他の人と共有する。	教科書・資料集 『ジェンダーから見た世界史』
9	主発問 **「ナポレオンはヨーロッパに何を残したのか」** ・ヨーロッパに国民国家概念が広がっ	・講義を聞き、適宜問題を解いていく。 ・資料から、個人で知識を獲得する。 ・他の人と共有する。	教科書・資料集

	ていくことを理解する。 ・「国民」という集合が作られたものであることに気づく。 ・「国家、国民」という枠組みから解き放たれた思考を身につける。		
１０	主発問 **「植民地でなければ自由と呼べるか」** ・政治的な独立が経済的独立を保障するものではないことを理解する。 ・植民地国への支援が、必ずしも「善」の名のもとに行われているわけではないことを理解する。	・講義を聞き、適宜問題を解いていく。 ・資料から、個人で知識を獲得する。 ・他の人と共有する。	教科書・資料集
１１ 本時	主発問 **「コーヒーを飲み続けるために、考えるべきことは何か？」** ・国際課題は「先進国：途上国」という単純な図式ではなく、複雑に絡み合っていることを知る。 ・課題の解決に際し、方法だけではなく、社会構造の「どこ」にアプローチすればいいかを考察する。	ジグソー活動 A：イギリス国内の資料 B：イギリスとブラジルの貿易構造の資料 C：ブラジル国内の資料 を、個人がそれぞれ学習し、最後にグループワークでつなぎ合わせる。	『珈琲の世界史』 『コーヒーのグローバルヒストリー』 『コーヒーカップの向こう側』
１２	単元の発問を考える。 **「グローバル化によって人々の生活や社会はどのように変化したのか？」**	・単元の問を考える。 生徒同士で話し合ったり、個人で思考したりして、授業で学習した知識を用いて単元の問を考える。 ・1 時と同じ主題を考え、自らの社会認識の変容を自覚する。	

8. 本時の展開（概略）

本時のねらい：

コーヒーの生産と消費の観点から、国内や国際上の貿易構造を理解し、どのように支援を行えばよいのかを考察する。

※過程の網掛け部分は適宜変更下さい。

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）

導入 （5 分）	主発問を確認		授業プリント
	これからもコーヒーを飲むために考えるべきことは何か？		
展開 （39分）	〈復習〉 ナポレオンによって、ラテンアメリカが独立していったことを確認。 エキスパート活動（10～15 分） 3 人（もしくは 4 人）1 組 5 班に分かれ、各資料を読み、設問に答えていく。 グループで、資料の内容や答えを確認。 各資料 ☆：産業革命における労働者がカフェインを求めた。 △：先進国と途上国に分かれ、途上国がモノカルチャーを加速させていく。 ◇：ブラジル国内の大農園主と小規模農家の差 ジグソー活動（15 分） 別の資料を持っているもの同士で集まり、情報を共有。 ❶授業プリントに記載されている問をそれぞれ考えて共有 ☆：Q なぜコーヒーブームが起こったのか？ △：Q なぜブラジルは独立後、コーヒー生産国になったのか？ ◇：Q コーヒー栽培における、ブラジル国内の問題は何か？ ❷社会構造を表にまとめる →自分の資料が全体の何（どこ）を指しているのかを確認する。 ❸どこにどのような支援をするのが適当か、考える。 図式化している社会構造の「どこ」にどのような支援を行うべきかを考える。	机間巡視を行いながら、つまづいている生徒に対して、支援していく。 机や距離が近すぎないように留意させる。 机間巡視を行いながら、全て説明および記述するのではなく、簡潔に要点のみをまとめることを促す。 机や距離が近すぎないように留意させる。 解答に詰まっているようであれば、内容の深さよりも、解答させることを優先させる。	〈各国の産業革命時期〉 産業革命国 / 開始時期 イギリス / 18 世紀半ば ベルギー / 19 世紀初頭 フランス / 19 世紀初頭 ドイツ / 19 世紀前半 アメリカ / 19 世紀半ば 日本 / 19 世紀半ば ロシア / 19 世紀後半 〈ブラジルの貿易〉 〈ブラジルの生産地域〉

	クロストーク（5～10 分） 班の発表を聞き、メモをとる。 個人ワーク（5 分） 主発問に対する自分の答えをグループ内の話し合いやクロストーク中のメモを参照しながら、自分の答えを書いていく。	他の班の解答を聞いて、自分の考えがさらに深まるように板書する。	
まとめ （1 分）	現在のコーヒーをめぐる国際事情を説明		

9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法）

A 評価	B 評価	C 評価
〈知識及び技能〉 コーヒーをめぐる問題について、「国家間の貿易」・「人間の暮らし」に着目して理解することができている。 **〈思考力、判断力、表現力等〉** コーヒーをめぐる問題について、問題の要点を正しくつかみ、解決方法を導き出している。	**〈知識及び技能〉** コーヒーをめぐる問題について、「国家間の貿易」または「人間の暮らし」に着目して理解することができている。 **〈思考力、判断力、表現力等〉** コーヒーをめぐる問題について、問題の要点を誤って認識し、解決方法を導き出している。	**〈知識及び技能〉** コーヒーをめぐる問題について、「国家間の貿易」または「人間の暮らし」に着目し、理解することができていない。 **〈思考力、判断力、表現力等〉** コーヒーをめぐる問題について、問題の要点を誤って認識し、解決方法を導き出せていない。

10. 学習方法および外部との連携

〇ジグソー学習〈学習方法〉

・まずは個人で資料を読解する。次に同じ資料を持っている者同士で資料の内容を共有する（エキスパート活動）。

→資料読解を苦手とする生徒はここで得意とする生徒の意見を聞き、得意とする生徒は説明することで、より資料を深く理解できる。

・次に別の資料を持っている生徒同士で班を組み、自分の資料を共有する。（ジグソー学習）

→ここでは、自分の資料の内容を理解している者は自分 1 人であるため、理論上、全ての生徒が活躍できる。

・共有後、発問に対する班の答えを導き出し、発表する。（クロストーク）

・発表を聞き、個人で主発問に対する解答を考える。

→これにより、班の解答とクラスの解答を参考にしながら、自分の考えを深めることができる。

※「意図及び効果」は、基本的に東京大学 CoREF による「知識構成型ジグソー法」における意図及び効果を狙っている。

11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み

・「SDG s ＋R」（SDG s を用いた教育実践報告書）の作成・配布

・所有している「SDGs バッジ」や「SDGs マスキングテープ」などを同僚に配布する際に、職場内の教員の実践を報告・相談し合う

・本実践を公開授業として見に来てもらえるように、教科会議で告知

・JICA インターン生に実践を見てもらい、国際理解教育のあり方について議論

【自己評価】

12. 苦労した点	○ジグソー学習の特質上、資料をすべての生徒にとって丁度よい難易度に設定しなくてはならない。そのため、授業（資料）づくりの段階での難易度に苦労した。 資料の構成が、データや図からの考察ではなく、文章の読み取りに終始してしまっている。そのことが本実践における授業を簡素にしてしまったのではないかと考える。
13. 改善点	○本実践の主発問が抽象的かつ生徒の興味関心を惹くように設定できていないため、「なぜコーヒー豆栽培に適していない日本でコーヒーは安いのか？」など、具体的かつ身近な主発問を設定したい。 ○本授業実践では、19 世紀と 21 世紀の状況を同質と捉えてしまう可能性がある。現在（21 世紀）の問題はどのような歴史に端を発しているのか？など時間軸を意識させたい。
14. 成果が出た点	○単元を通して、資料の読み取りや話し合い活動に力を入れて指導を行ってきた。そのため、単元の後半となる本実践では、授業者の役割はタイム管理と机間巡視のみとなり、生徒の主体性を促すことができ、その後の授業でも姿勢は、保たれていた。 ○最後の個人ワークでは、「長期的な視点で、消費者・生産者双方に利益となるしくみを考えるべき」「どことの間で課題が生じているのかを把握し、国や農家それぞれへの支援方法を考え、必要なところに必要な支援を行う」などが記載されており、貿易構造とその課題についての理解が深まったといえる。
15. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）	本単元の問いとして **「グローバル化によって、社会と人間の生活はどのように変わったか？」** を設定した。 本単元の授業を受ける前の考えを記載させ、1 時ごとに自分の考えを考察し、単元の終わりに、本単元の授業を受けた後の考えを記載させた。 その状態をロイロノートにまとめることで、自身の学習を可視化できる（下図参照）。 以下は生徒の実際の記述（同一記号は同一生徒を示す） **〈授業を受ける前の考え〉** A「グローバル化で社会は生まれながらの身分格差がなくなり、誰もが平等という今の社会と同じようになり、娯楽を楽しむことができるようになる。」 **〈根拠となる歴史的事象〉** A「ラテンアメリカでは大西洋革命の理念が入ってきたことで解放運動が盛んになったが、それを黙認したイギリスは有利に貿易ができるようにラテンアメリカに単一作物を作るよう強制して経済的支配下においたため、ラテンアメリカとイギリス、アメリカ、クリオーリョとその下の階級にいる先住民や黒人との差も拡大したと考察する。」 **〈授業を受けた後の考え〉** A「グローバル化によって人と人との格差が広がり、仕事をしても苦しい生活を強いられる人と働かなくても豊かに生きていける人ができたと感じた。」

〈授業を受ける前の考え〉

B「一つの国の出来事が世界中に影響を与えるようになっていき、一国の政治・経済がその国だけの問題だけではなくなっていく。」

〈授業を受けた後の考え〉

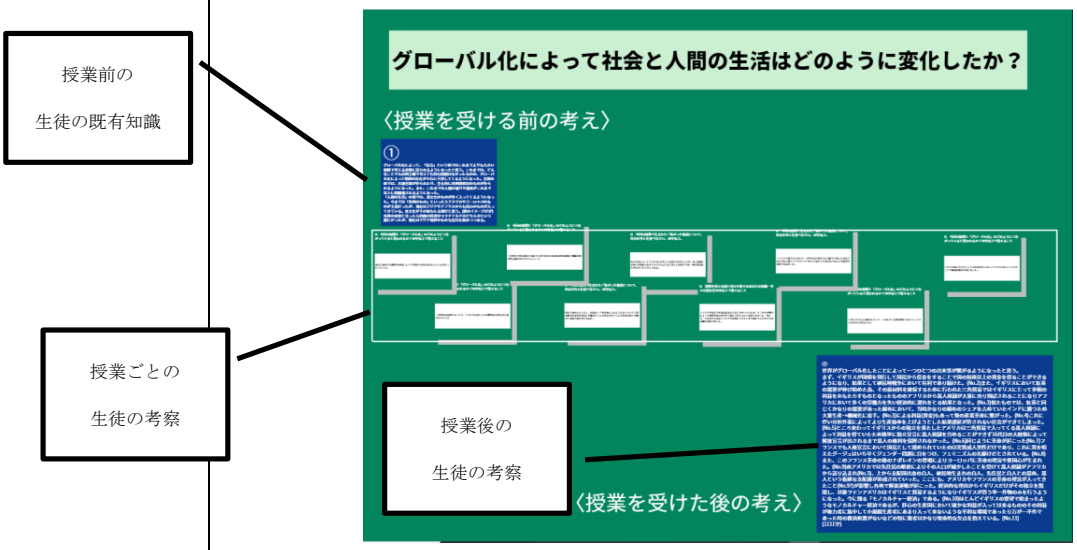
B「産業革命から派生した資本主義の発達は西欧の先進国とその植民地や経済後発国との間で製品の製造販売と原料の生産供給を別々に担う国際的な分業体制を作り出すという社会的な変化をもたらした。そのような社会構造の変革の中で、他の大陸の現地国から購入した奴隷が他の大陸のプランテーションに輸送されて使役されたりするといった西欧諸国以外の場所に住まう人々への変化や、西欧先進諸国の求める単一の生産物を集中的に供給し続けるモノカルチャーと化して経済の安定性を失うといった社会的な変化や経済後発国における大規模農園主と小規模農家の間に得られる利潤と背負うリスクそれぞれの不平等が生まれるようになったという変化などが生まれた。」

A の生徒の考えは、授業前後で社会認識に変容が起こっている。グローバル化により、一部の人のみが享受していた同質的な権力ではなく、格差に目を向けることができるようになっている。

B の生徒の考えは、方向性においての変化は見られないものの、歴史的事実を踏まえた上で、具体的かつ明瞭に説明できるようになっている。

※記述の表現や単語の違和は、修正させるが、報告書には原文のまま記載

※記載した答えは生徒の解答の一部。　（↓ロイロノートで生徒が作成）



16. 授業者による自由記述	2021 年の「国際理解教育/開発教育指導者研修」の副題は、～世界の課題・多様性をジブンゴト化～であった。 この、生徒が「ジブンゴト化」できるような授業を作ることに苦心した。第 2 回目の研修でも後半の教員同士の議論での話題は「ジブンゴト化」であり、多くの教員が共通して頭を悩ませるものであると実感した。 しかし、研修に含まれる講演で「ジブンゴト化」の定義は、ある程度の大枠はあるもの

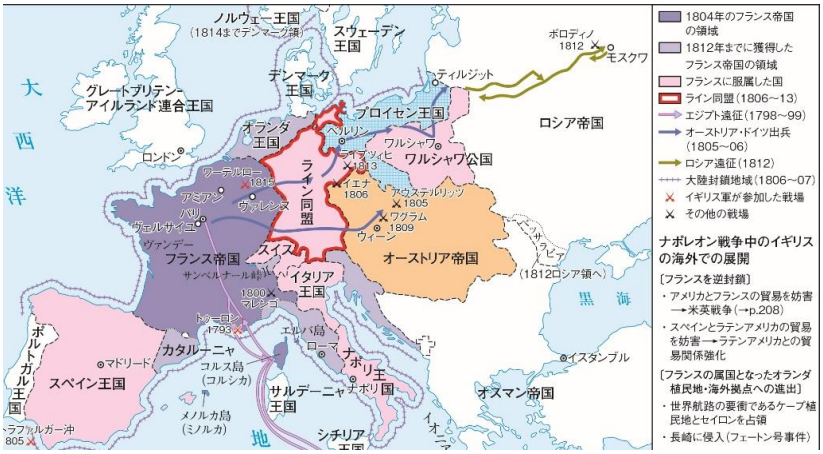
	の、授業者が設定してよいと、アドバイスをいただいた。 そこで本実践において、「ジブンゴト化」の定義を、「世界の課題・多様性を学習することによって、生徒自身の考え・認識が変化すること」とした。 生徒が元々世界に対して抱いていた知識・認識・イメージが、国際理解を促す授業によって、変化したのであれば、大小あれど「世界の課題のジブンゴト化」といえるのではないだろうか。 なぜなら、直感的に、世界の課題は自分の生活とは全く結びつかないと考えているならば、世界の課題を学習しても、自分の認識を改める必要がないからだ。 そのために、生徒に授業を受ける前の考えを記述してもらい、授業ごとに毎度記述を求めることで、自分の考えを表明させ、自身の考えの変容を可視化させた。 その後の授業で出題した課題の自由記述蘭で、 「こんな事実を知らずにこれから生きようとしていたなんて、自分が怖い」 と記述した生徒がいた。 具体性を伴わない記述とはいえ、世界の諸課題を学習して、生徒自身が考えを変化させ、世界史を学ぶ意味を見出したことを、「ジブンゴト化」としたい。 その意味で、本実践は、少ないながらも国際理解教育の一端を担えたのではないかと考えるとともに、そのような機会をいただけた、本研修に関わるすべての人に対して、感謝の意を表明したい。

参考資料：活用する授業順（資料として活用した分）

板谷敏彦,2013,『金融の世界史』,新潮選書
『mundi』「みんなのお金 ―回す仕組みを作る― 」
川北稔,1996,『砂糖の世界史』,岩波ジュニア新書
角山栄,2017,『茶の世界史』,中公新書
橋本毅彦・栗山茂久,2001,『遅刻の誕生』,三元社
遅塚忠躬,1997,『フランス革命』,岩波ジュニア新書
三成美保他,2014,『ジェンダーから見た世界史』大月書店
旦部幸博,2017,『珈琲の世界史』,講談社現代新書
小澤卓也,2010,『コーヒーのグローバルヒストリー』ミネルヴァ書房
『コーヒーカップの向こう側』開発教育教材より

世界史Ｂ 2nd　No.11-1　大陸封鎖とコーヒー

１．ナポレオンの経済封鎖



ナポレオンは、ヨーロッパ各国に「イギリスと貿易しないこと」を指示。

ポルトガルは、指示に背き、ナポレオンの襲撃に遭う。
→ポルトガル王家は、
　占領していたブラジルに逃避
→ナポレオン失脚後
　ブラジルは独立

２．エキスパート活動

⑴資料を参考にして、そこにある課題を答えましょう。
⑵そして、同じ資料を持っている人で集まり、答えを共有しましょう。
⑶自分で説明できるようになりましょう。

自分の資料　→

３．ジグソー活動

⑴自分の資料を共有しよう。

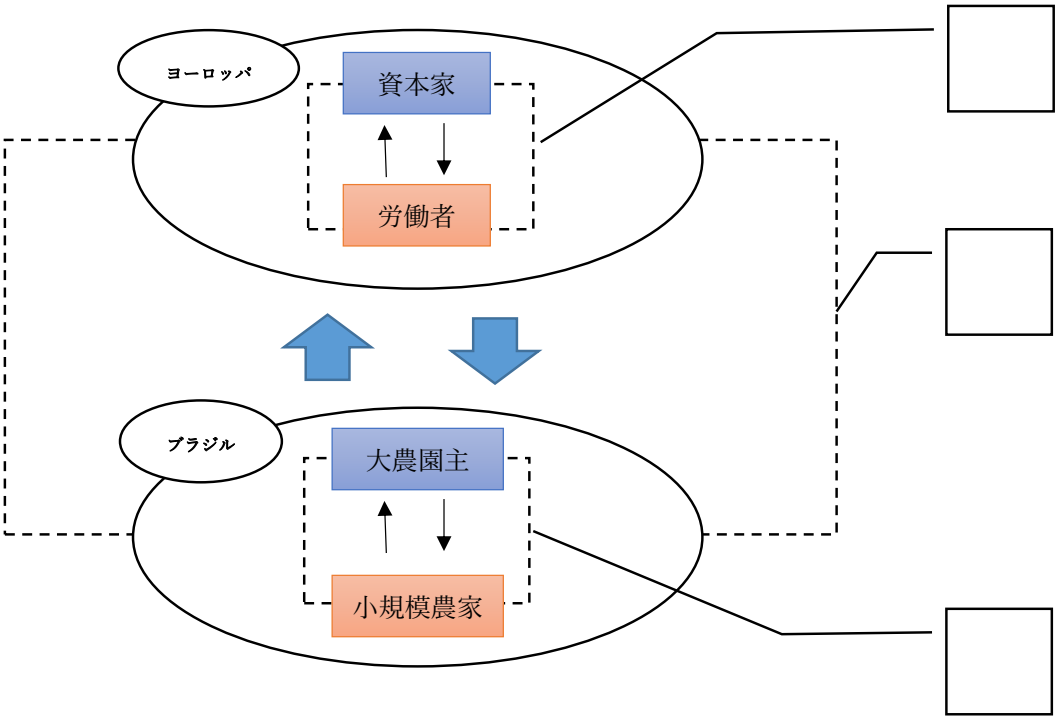
☆　コーヒーを飲む人
Q　なぜコーヒーブームが起こったのか？

△　コーヒーを売る国・買う国
Q　なぜブラジルは独立後、コーヒー生産国になったのか？

◇　コーヒーを作る人
Q　コーヒー栽培における、ブラジル国内の問題は何か？

世界史Ｂ 2nd　No.11-2　大陸封鎖とコーヒー

⑵以下の図の□に自分たちの資料の記号（☆・△・◇）を入れて構造を理解しましょう。



⑶どこにどのような支援をすれば、持続可能な構造が作れるか、班で考えましょう。

4．クロストーク

班ごとの結論を聞いて、各班が考えた内容を聞き、メモを取りましょう。

5．個人ワーク

最後に自分の意見を書きましょう。：コーヒーを飲み続けるために、考えるべきことは何か？

資料☆　コーヒーを飲む人

ナポレオンが失脚してから、数年後イギリスではじまった産業革命がヨーロッパに拡大します。
次の資料を読んで、設問に答えましょう。

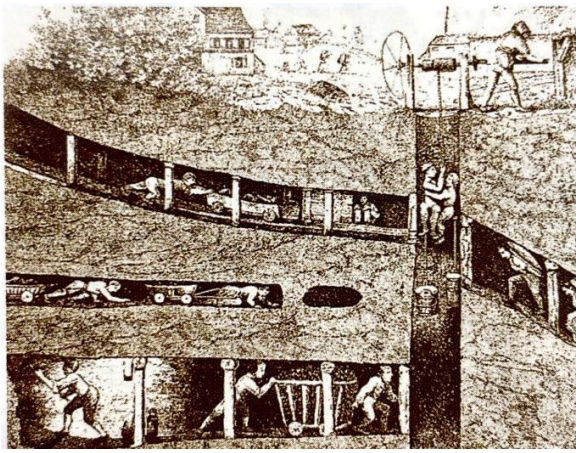
産業革命によって、生産の能率が急速に高まり、工場を経営する**産業資本家**の階級が台頭した。他方、その工場などで賃金をもらって働く**賃金労働者**の階級も明確に形づくられた。
産業革命によって、工場制手工業による大量生産が定着すると、熟練技術の意味が薄れ、多くの職人が職を失った。彼らは，賃金労働者として生きていくほかなくなった。（教科書 p. 184）（資料集 p. 184）

産業革命国	開始時期
イギリス	18 世紀半ば
ベルギー	19 世紀初頭
フランス	19 世紀初頭
ドイツ	19 世紀前半
アメリカ	19 世紀半ば
日本	19 世紀半ば
ロシア	19 世紀後半

Q１　産業革命によって、現れた２つの階級とは何か。

産業革命が拡大した結果、労働者階級が成立しました。中産階級の人はコーヒーに「おいしさ」を追求したのに対し、厳しい労働と貧困の中で働く労働者たちにとって、おいしさなど二の次でした。彼らの多くは、安価で手に入り、眠気や疲労を和らげてくれる「カンフル剤」のようなものとしてコーヒーを飲みはじめ、それが習慣化して手放せなくなり、大量に消費するようになっていきます。（『珈琲の世界史』より）

Q２　労働者たちにとって、コーヒーが必要だったのはなぜか。



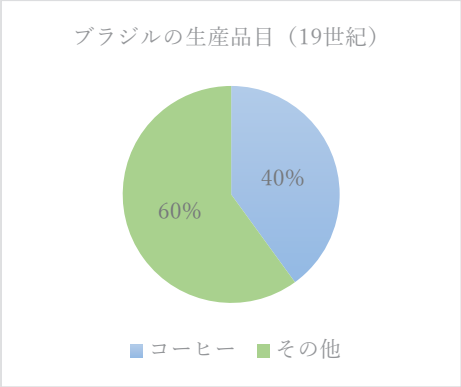
資料△　コーヒーを売る国・買う国

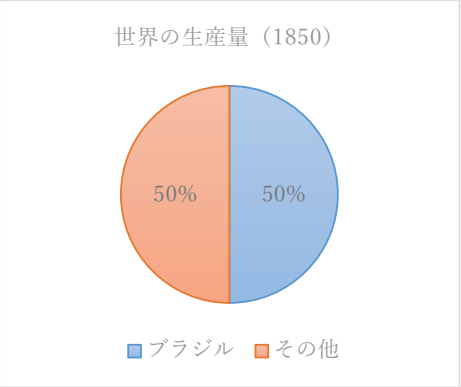
ナポレオンが失脚してから、ブラジルはポルトガルの植民地から独立することができました。
次の資料を読んで、設問に答えましょう。

イギリスは独立後のブラジルに大きな影響力を及ぼした。イギリスはブラジル市場の独占を狙っていたが、ブラジル側もイギリスの豊富な資金を必要としており、両者の利害は一致したのである。

ブラジルでは、砂糖やコーヒーが生産されていたが、イギリスは、ブラジルが自国の植民地における砂糖生産の競争相手になることを敵視した。そのため、イギリスはブラジルのコーヒー産業に投資し続け、反対にブラジルの砂糖産業に、圧力をかけた。

独立後のブラジルの全輸出額の４０％がコーヒーとなり、1850 年代の世界で生産されるコーヒーの半分がブラジル産となった。





これにより、ブラジルはイギリスを含めるヨーロッパのコーヒー生産国として発展していくが、
単一作物を生産する国（モノカルチャー）として、工業化が遅れていく。

Ｑ１　なぜブラジルでは砂糖産業が伸びず、コーヒー産業が伸びたのか？

Ｑ２　ブラジルの生産がコーヒーに特化していくことのデメリットは何か？

資料◇　コーヒーを作る人

ナポレオンが失脚してから、ブラジルはポルトガルの植民地から独立することができました。
次の資料を読んで、設問に答えましょう。

ブラジルでは、大農園を中心とするコーヒー栽培が本格化した。
ブラジルの大農園主は、土地を持っていない労働者を従属させた。
さらに、大農園主は先住民の居住区を奪い、耕地を拡大していった。

元々、リオデジャネイロ州で行われていたコーヒー栽培は、より適しているミナスジェライス州とサンパウロ州まで、拡大した。

コーヒー農園で働く力の弱い生産者は、コーヒーの売り上げがよくても利益を手にできるわけはない。
利益のほとんどを、ブラジルの大農園主か先進国が得ることになる。

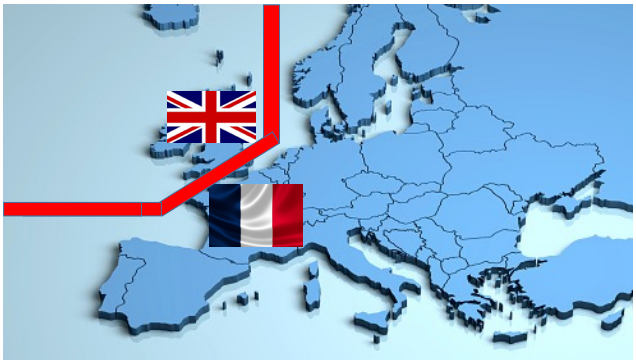
植えてから収穫まで、5 年かかるコーヒーの木を守る必要があり、収穫に恵まれると、コーヒーの価格は下落し、収入は下落する。
収穫に恵まれなければ、コーヒーの価格はあがるため、売れる量が減ってしまう。その損失は、小規模農家が引き受けることになる。

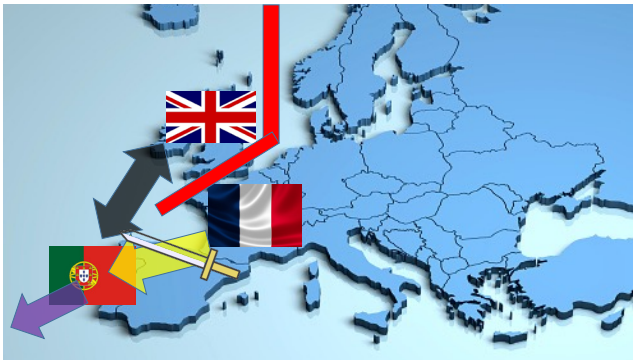
Q１　この資料におけるブラジルのコーヒーの生産者の立場を大きく２つに分けると、何と何の立場になるか。

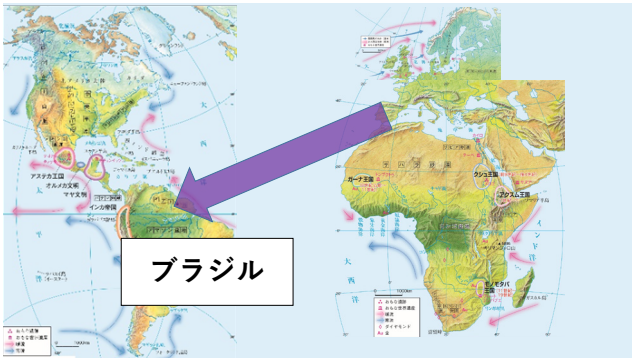
Q２　ブラジル国内の小規模農家が抱えている課題は、どのようなものか。

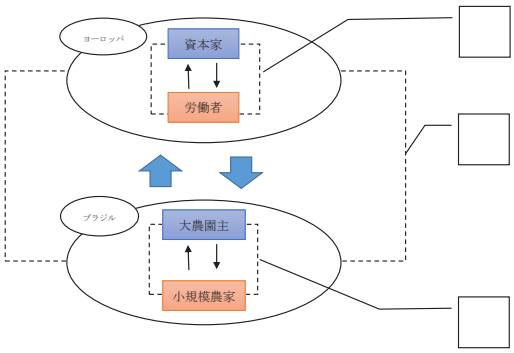
世界史B　⑩コーヒーと格差

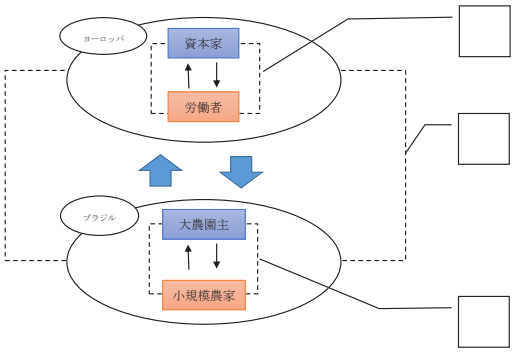
コーヒーを飲み続けるために、
考えるべきことは何か？






ブラジル


ヨーロッパ
資本家
労働者
ブラジル
大農園主
小規模農家



経済先進国

途上国

経済先進国

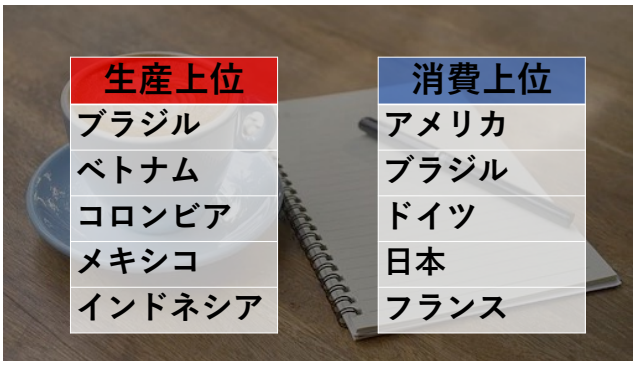
途上国

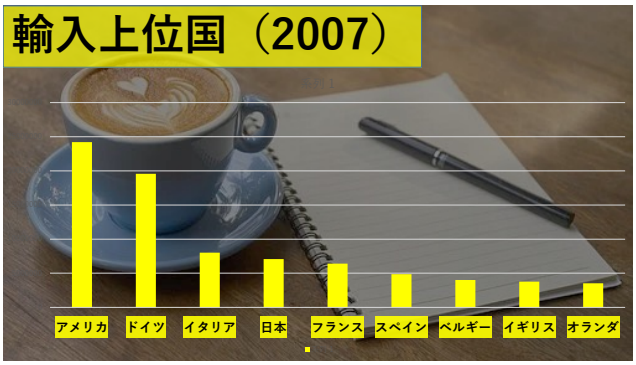
資本家

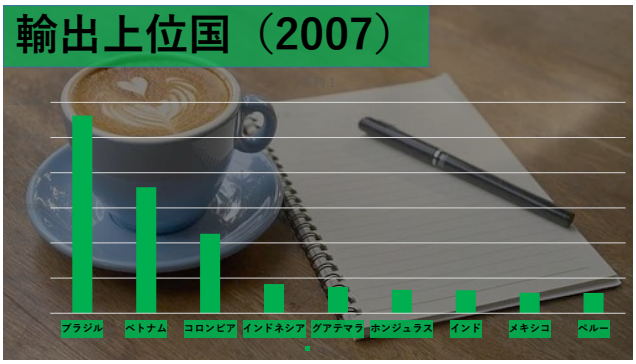
労働者

大規模農園者

小規模農家・労働者


生産上位
ブラジル
ベトナム
コロンビア
メキシコ
インドネシア
消費上位
アメリカ
ブラジル
ドイツ
日本
フランス


輸入上位国（2007）
アメリカ
ドイツ
イタリア
日本
フランス
スペイン
ベルギー
イギリス
オランダ


輸出上位国（2007）
ブラジル
ベトナム
コロンビア
インドネシア
グアテマラ
ホンジュラス
インド
メキシコ
ペルー